

平成26年度
産学連携事業「大学教員の企業現場研修」の開催結果

情報系人材の育成に向けた産学連携事業を本格的に実施するため、本年度は9月に1回、2月に2回、3月に1回実施した4件の「大学教員の企業現場研修」について以下に開催結果を報告する。

平成26年度 第1回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ： イノベーションの核となる先端的ICT事例の現場研修
2. 研修目的： イノベーションの核となる社会システムとして欠かせない様々なICTの事例を学び、学生にICTの夢と希望を伝えられることを目指す。また、ICT業界で高い専門性で活躍する人材育成に向けた社員教育制度の紹介や若手社員との交流を通じて、企業の求める人材と大学に求められる教育についての意見交換を行い大学教育の見直しを図るきっかけづくりとする。
3. 研修企業： 富士通株式会社
4. 開催時期： 平成26年9月26日（金）1日間
5. 参加者数： 30名
6. 参加費： 無料

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 10:00-11:00 | 1. 富士通における人材育成への取り組み
富士通の人材育成体を紹介し、大学で身につけて欲しい基礎知識、能力等について意見交換・議論を行います。 |
| 11:00-12:00 | 2. ICT先進事例の紹介と意見交換(1)「ビッグデータ活用」
昨今、企業経営やICT活用のキーワードとなっている「ビッグデータ」の活用動向と取り組み、特に顧客企業でニーズの高いビッグデータ活用の「類型」と具体的な「ソリューション（雛形）」を紹介します。また、今後、活躍が期待される人材と、顧客企業向けの育成プログラムを紹介し、意見交換を行います。 |
| 13:00-14:00 | 3. ICT先進事例の紹介と意見交換(2)「食・農クラウド」
日本の農業の発展に向けた富士通の取り組みについて「食・農クラウド Akisai(秋彩)」を中心に紹介し、意見交換を行います。 |
| 14:00-15:00 | 4. ICT先進事例の紹介と意見交換(3)「IT創業」
スーパーコンピュータを活用して医薬候補の化合物を創り出す「IT創業」技術への取り組み状況について紹介し意見交換を行います。 |
| 15:00-15:50 | 5. 富士通の最先端技術の紹介
富士通トラステッド・クラウド・スクエアに展示のクラウド、セキュリティ、モバイル、ビッグデータをはじめとする最先端のプロダクトやサービス、テクノロジーを紹介します。 |
| 16:00-17:00 | 6. 若手社員との意見交換
社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったか、大学に対して望みたいこと、などについて入社3~5年の若手社員が発表し、意見交換を行います。 |

7. 実施結果

受講者の評価は高く、研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」が93%、「授業に役立つ」が83%の結果であった。

[主な意見]

- ① 産学連携研修は非常に有益な事業と思うので、今後も是非続けて欲しい。
- ② 国際的な地域環境などにも配慮した企業内人材育成の取り組みに共感し、大学教育にもますます同様の手法を取り入れる必要性を感じた。
- ③ 大学でやらなければならないことを企業が真摯に行っている姿を見ていたく感動。大学の教育全体に、本日学んだことを活用させていただきたいと思った。
- ④ 企業側、若手社員の意見いずれからも参加型、課題解決型の授業が望まれていることがよく分かった。また、若手社員との意見交換を通して、授業形態を考えるきっかけになった。
- ⑤ 情報産業論、ビッグデータの活用、マーケティング等の授業で活用したい。

8. 研修会場の様子 (研修・若手社員との意見交換風景)



平成26年度 第2回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ: 技術開発から社会での活用までを担うICT企業の現場研修
2. 研修目的: 社会に貢献し、新たな価値を社会とともに創造していくためにはICTの専門知識だけではなく、幅広い知識や柔軟な考え方、コミュニケーション能力などが求められます。本研修では、社会に役立つ先端技術を開発し、その技術を用いて製品やサービスを提供している事例などについて紹介し、企業の現場ではどのような人材を必要とし、そのために必要な教育とは何かを考える機会としていただくことを目指します。また、社員教育制度の紹介や、若手社員との交流を通じて、企業の求める人材と大学に求められる教育についての意見交換を行います。
3. 研修企業: 日本電気株式会社
4. 開催時期: 平成27年2月20日(金)1日間
5. 参加者数: 24名
6. 参加費: 無料

プログラム

10:00-10:50 1. NECの事業概要と事業戦略の紹介

人がより豊かに生きるための社会価値創造をめざし、インフラで未来をささえるNECの事業概要・事業戦略等を紹介します。

10:50-11:40 2. NECの最先端取り組み事例紹介と意見交換

(1)SDN(ネットワークの仮想化技術)

従来は煩雑で管理に手間がかかっていたネットワーク通信を柔軟に効率よく安全に行えるネットワーク仮想化技術(SDN: Software-Defined Networking)を世界で初めて製品化した。世の中に無いものを製品化する困難をどのように乗り越えてきたのか、事業立ち上げに関する話や現在の取組みなどについて紹介し、意見交換を行います。

12:40-13:30 (2)サイバーセキュリティ

安全・安心・効率・公平で豊かな社会の実現に向け、ICTを活用した高度な社会インフラを提供する「社会ソリューション事業」の一つであるサイバーセキュリティについて、その事例や取り組みを紹介し、意見交換を行います。

13:30-14:30 3. 大学教育に求める人材育成についての意見交換

企業が求める人物像・重視する能力とはどのようなものか、近年の新入社員の状況と、求められる能力とのギャップについて紹介します。その上で企業から大学教育に求める人材育成について説明し、意見交換を行います。

14:45-15:45 **4. NECの社員教育制度についての紹介と意見交換**

社会にイノベーションをもたらす、常に成長し続ける人材を育成する社員教育制度について紹介し、意見交換を行います。

15:45-17:15 **5. 若手社員との意見交換（大学での学びについて）**

社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うこと、大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったのか等について発表し、意見交換を行います。

7. 実施結果

詳細な資料提供があり講義内容が理解しやすく受講者の評価は高かった。終了後のアンケートではこの研修を他の教員にも紹介したいが82%、研修結果が授業改善に役立つが90%であった。世界に通用する人材の育成を大学と企業が共に考えるシステム作りの必要性、産学連携・交流強化の意見があった。また、学生を中心とした能動的な授業展開（参加型授業）を推進し、アクティブラーニング導入の有効性を実感した旨の意見が寄せられた。

その他の主な意見を下に示す。

- ① 大学教育に求められる人材育成は、教員の情熱と「時代」に向かうビジョンであろう。これらをアクティブにして教育研究に取り組んでいきたいと思う。
- ② 企業の実情を知り、学生に対して厳しく指導することの必要性和、実験・実習を充実・強化することも重要であると認識した。企業現場の課題や問題点等を知ることができたことを今後の授業に反映させたい。
- ③ 私情協の思いが実感できた。大学教育はリサーチではなく育成であるという言葉に尽きる。
- ④ 企業の求める人材や現場実態を知り、学生のどのような能力を伸ばすべきかの指針を得ることができた。

8. 研修会場の様子（若手社員との意見交換・研修風景）



平成26年度 第3回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ： 新たな価値を生み出す「人材育成への取組」を学ぶ現場情報の研修
2. 研修目的： 情報技術の発達によりビジネスのスタイルは刻々と変化している。世の中にあふれる大量の情報を「知識」として活用し、新たな価値を生み出す仕組みをデザインすることが必要不可欠です。「情報の価値化と知の協創をデザインするカスタマーズファーストコーポレーション」を目指した人材育成の考え方や仕組みについて紹介します。また、若手社員、管理職との交流を通して、企業の求める人材と大学に求められる教育について意見交換を行います。
3. 研修企業： 株式会社内田洋行
4. 開催時期： 平成27年2月24日（火）1日間
5. 参加者数： 20名
6. 参加費： 無料

プログラム

- 10:30-10:50 **1. 会社概要と事業領域の紹介**
内田洋行の会社概要・事業等について紹介します。
- 10:50-12:00 **2. UCHIDA ライブオフィス見学**
「働き方」と「働く場」の革新『Change Working』を自ら実践し、生産性が高く躍動的なワークスタイル実現と省エネルギーの両立に挑戦しているライブオフィス、時代の要請に応じて柔軟に変化できる空間、ICTを活用した空間を見学します。また、高等教育機関におけるアクティブラーニングスペースの豊富な事例紹介や最新の技術、デザイン、コンテンツを基に作り上げたフューチャークラスルームを見学・体験します。
- 13:00-14:10 **3. 採用基準と社員教育プログラム等の紹介と意見交換**
採用基準と社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みを紹介し、意見交換を行います。
- 14:30-15:40 **4. プロダクト企画開発業務の紹介と意見交換**
製品開発化を行っている若手社員からの業務の内容、必要なスキル、ICT企業の最新の課題や実態を紹介し、その上で求められる人材像、キャリアアップについての考えなどを紹介し意見交換を行います。
- 15:50-17:00 **5. システムエンジニア業務の若手社員との意見交換**
システムエンジニアの若手社員からの業務の内容、必要なスキル、ICT企業の最新の課題や実態を紹介し、管理職からの求められる人材像、キャリアアップの考えなどを紹介し、大学教育に求める人材育成について若手社員との意見交換を行います。

7. 実施結果

フューチャークラスルームや、ライブオフィス等、柔軟に変化できる ICTを活用したアクティブラーニングスペースなどを見学・体験し、多くの受講者の感動の声が聞かれた。さらには人材育成の考え方や仕組み、システムエンジニア業務の若手社員との意見交換を行ったことも評価が高かった。研修終了後のアンケートでは、「他の教員にも紹介したい」が95%、「授業現場で役に立つ」が90%であった。

主な意見を下に示す。

- ① 現場の多くの方々から色々な経験、考え方を拝聴でき、授業で何をどのように教えるか、考え直す機会を頂け、授業をどう組み立てるかを考える上で大変参考になった。
- ② 協働して業務を推進していく現場の実態が理解でき、グループワークやアクティブラーニングの授業取組みをより推進して行く必要性を感じた。
- ③ 社内教育システム、求める人材像の話、若手社員から聞くことができたことは、今後の大学教育を見直していく上で大変参考になった。
- ④ 有意義な産学連携事業であり、継続して欲しい。また、大学と産業界との共同研究の取組みを推進、強化して行くことが重要である。

8. 研修会場の様子 (研修風景)



平成26年度 第4回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ： 次世代の社会システムと最先端ICT活用事例の現場研修
2. 研修目的： 社会が大きく変化する中で、ICT がイノベーションの核となり新しい成長分野の創造に不可欠な存在となっています。それにはICT 専門分野の教育だけでは限界があり、多面的な視点から問題発見・解決する分野横断型の教育が求められています。豊かな社会を実現するために大学教育をどのように変革しなければならないのか先生方に気づきを得ていただくため、実際に社会のイノベーションにつながるプロジェクトを通じて関係者が協働して新しい価値創造に取り組んでいる事例を紹介します。その上でイノベーションに関与できる社員教育についてキャリア形成の考え方や仕組みについて紹介いただきます。
また、数人の若手社員、管理職を交えて意見交流する中で大学教育に求められる取組等について課題を整理します。
3. 研修企業： 株式会社日立製作所
4. 開催時期： 平成27年3月5日（木）1日間
5. 参加者数： 32名
6. 参加費： 無料

プログラム

- 10：00-12：00 **1. 事業領域と事業戦略の紹介/日立が求める社員教育の紹介**
日立の事業フィールド・事業・事業戦略等について紹介するとともに、日立の採用戦略、求められる人材及びダイバーシティマネジメントに関わる取り組み等を紹介いたします。
- 13：00-14：50 **2. 最先端ICT活用事例の紹介と取り組みについて（ショールーム見学）**
日立グループが推進する社会イノベーション事業を支えるICTを利活用した先進的な各種のソリューションを紹介いたします。
① ヘルスケア： 健康的な生活の支援など実現する各種ソリューション
② 一般企業： ICTの活用によりワークスタイル改革を支援する各種ソリューション
③ まち・インフラサービス：通信ネットワークの活用で電力施設やプラントなどの保守を実現する各種ソリューション等
- 15：00-16：00 **3. 就業力育成と大学教育のマッチングと意見交換**
社員が求めている就業力と新入社員（大学教育の成果）の実態を紹介し、大学が取り組むべき教育改善についての意見交換を行い、大学教育のあり方を振り返ることとします。
- 16：00-17：00 **4. 若手社員との大学教育に対する意見交換（大学での学びについて）**
若手社員からイノベーションに関与できる就業力を獲得するための社員教育、キャリア形成について紹介し、その上で大学教育に求められる課題並びに、改善策について意見交換を行います。

7. 実施結果

ICTをイノベーションの核として有機的に融合させ、社会に貢献することを目指している日本を代表する企業から、事業領域・事業戦略・社員教育制度の紹介及び、就業力育成と大学教育のマッチング等の取組を現場で実体験した。

グローバル化と多様性に対応したダイバーシティマネジメントの紹介では、女性管理職2名からダイバーシティマネジメントの全社的取組の具体策や職場で取り組んでいる実態などについて紹介があり、参加者からは社会的課題を誠実に解決している企業姿勢についての非常に高い評価とこのような先進の取組事例が大変に参考になったこと。今後日本の産業界のロールモデルとなることを期待する等の声があった。

修終了後のアンケートでは、「授業現場で役に立つ」が97%の高い評価で、「他の教員にも紹介したい」が90%であった。

主な意見を下に示す。

- ① 企業等に遅れることなく、ICTの教育環境投資と活用を大学が積極的に行い、知的生産性の向上に寄与しなければならないことを痛感させられた。
- ② 「学教育に求められる能力」を最も求められる人が、大学の教員である。
- ③ 学生が主体的に取り組むようなカリキュラム、専門知識を体系的に修得させる教育改善や大学教職員の意識改革の推進が重要であると再認識できた。
- ④ 人間力を育成していくには、PBL等のアクティブラーニングの果たす役割は大きい。1年次から4年次に至るアクティブラーニングの体系で、どのような学生を育成していくのかというグランドデザインを各大学が描かなければならないと痛感した。
- ⑤ ICTを用いた技術的な紹介が多い中で、グローバル化や多様性に対応したダイバーシティマネジメントに企業がどのように取り組んでいるのか、現場ではどのように対応しているのかについて具体的に知ることができたことは貴重な体験であった。

8. 研修会場の様子 (研修風景)

